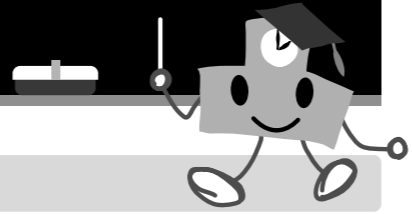


高 校 の 事 例 豊 平 区 平 岸 高 校

教科指導の関連ポイントで環境を指導。 考察を深め、行動できる人間に。

各教科と環境教育のポイントを連動。
立体的な授業で意識向上が根付く学習を。



内 容 各教科の中で進める 環境への取組

高校では進路関係の教科が重視されるため、限られた時間の中で「環境」について考える活動はなかなか難しい。当校では各教科の指導の中で、環境に関連した項目に触れるポイントを有効に利用し、環境教育につなげている。

地歴科(地理):環境と国際問題

様々な視点や角度から考えられる力がつくことを目指し、オゾン層破壊、地球温暖化、酸性雨、熱帯雨林、原子力放射能汚染、海洋汚染、環境ホルモン、ごみ及び産業廃棄物、環境保全への道、日本の公害などについて、原因、被害、対策などを学ぶ。また、これらの問題について国際的な視野を導入している。

例えば、現在起きている環境問題に関する南北問題について、発展途上国にとっては工業化が優先課題であるために、環境問題への資金投入ができない状況などを、生徒たちが知った上でさらに具体的な考えを広げられるようにしている。

理科(生物):化学物質がおよぼす環境への影響

地球温暖化、砂漠化、大気汚染、水質汚染、生物濃縮、環境ホルモンなどについて、自然環境の変化と保護の視点から学習している。また教科の実習として、タンポポの在来種と帰化種について校地内での調査などを行っている。そのほか、レイチェル・カーソン著『沈黙の春』の原文を読み、著者の考えに直接触れる授業も取り入れている。



〈授業風景〉海外へ帰化した種の在来種標本と資料調査

家庭科:環境と生活のかかわり

環境資源に関する内容全般を学ぶ。特に「消費・経済領域」では、「環境負荷を少なくするためには」という具体的な内容での授業を行っている。また「食生活領域」では、食糧の輸入に関わって、輸入国の資源や環境への影響などに触れながら、一人一人が消費者として、広い視野をもつことの重要性を学習できるようにしている。



このような資料を使っています

保健体育:環境と私たちの健康

生活環境の汚染や地球規模の環境問題が、私たちの生活や健康にどのような影響を与えるかについて考え知ることを柱として、授業を行っている。またこれらの問題への対応策、改善策についても、身近な視点、マクロ的な視点でそれぞれ考え、知ることによって、私たちの健康が守られていることへの理解を深めている。主に「大気汚染と健康」「水質汚濁、土壌汚染と健康」「環境汚染を防ぐために」などの単元で学習している。

今 後 生活の中で取組み 地域へと広げる

環境のみをとりあげた学習だけが「環境教育」ではない。身近なものや生活を取りまく事柄と環境のつながりを考えながら取組んで行くことが重要だと考えている。

当校ではボランティア部員(10名ほど)による社会参加活動をしているが、今後は地域の町内会、小学校や施設との関わりがもっと深まるような展開を考えている。そういった際にも、環境について学び、考えることができるような活動を取り入れていきたい。



札幌らしい教育キャラクター～
環境キャラクター「ちっきゅん」
(デザインアートコース5期生～本多美沙さん 制作)

広げよう
つなげよう
環境学習の輪



実施校から
メッセージ

今年、札幌市の教育プログラムの特色「環境・読書、雪」を表すキャラクター「ちっきゅん」「おっほん」「ゆっぼろ」のデザインとして、当校のデザインアート科の生徒のものが採用された。これにより、学校全体が環境に関する学習に親しみをもって取組めると期待している。